平成29年度 第41回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

9

男子 女子 2回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 グリーンアリーナ神戸 A コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名
昭和学院高等学校	27	11 - 10	18	神戸星城高等学校
		16 - 8		
		-		
		-		
		7mTC		

2回戦、35回出場の関東ブロック代表の昭和学院と地元兵庫代表の神戸星城の対戦となった。

昭和学院⑬番が先制点を決めるも、すかさず神戸星城⑩番も得点を決める。その後、神戸星城が得点

を重ね1対4となり、前半5分に昭和学院T.O。その後、昭和学院③番のシュートが決まり追い上げ

前半17分4対6で神戸星城T.O。前半21分、昭和学院⑬番の速攻が決まり、6対6の同点となり

追いつく。その後、昭和学院⑭番が得点を決め、昭和学院がリード。前半22分に神戸星城T.O。

また、昭和学院⑬番②番⑭番の得点が決まりリズムに乗るが、神戸星城⑨番⑩番⑤番②番が得点を

決め、追い上げる。前半11対10昭和学院1点のリードで終える。後半になり、昭和学院速攻でリズム

ムをとり⑬番⑰番⑭番と得点を重ね、昭和学院①番キーパーの好セーブもあり神戸星城の得点を

おさえる。後半7分15対10となり、神戸星城T.O。神戸星城は後半開始9分となったところで⑩

番がようやく得点を決める。後半10分16対11となる。後半14分16対12で昭和学院T.O。その後、

昭和学院、⑬番⑱番⑭番が得点を重ね、後半24分23対15昭和学院8点のリードとなる。27対18

で試合終了。後半リズムにのって昭和学院が3回戦の進出を決めた。

30年 3月 25日

記載者氏名 中野 健

平成29年度 第41回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

10

男子 女子 2回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 グリーンアリーナ神戸

Bコート

チーム名			総得点			総得点			チーム名		
県立鹿児島南高等学校			12	—	8	17			日本大学山形高等学校		
			13	—	9						
			—	—	—						
			—	—	—						
			—	—	—						
			7mTC								

2回戦、第5試合は九州代表、6年連続14回目の出場となる県立鹿児島南高校と、東北代表2回

目の出場となる日本大学山形高校の対戦である。試合開始20秒で鹿児島南③がサイドシュートを決

め先制すると、今度は日大山形②が同じくサイドシュートを決め、すぐさま同点とし、⑧らでさらに

3連続ゴールと気を吐いた。このまま流れが日大山形にいくのかと思いきや、鹿児島南はGK⑩の好

セーブから、②の切れ味鋭いカットインやスピードにのった速攻等により、7対3と逆転に成功する。

たまた日大山形はタイムアウトをとり、立て直しを図るが、点差を縮めることができず、12対8

で前半を折り返すこととなる。後半でも鹿児島南の優勢は変わらず、速攻を中心に④のミドルや⑤の

サイドシュートが要所で決まり、着々と得点を重ねていく。日大山形は⑨のカットインや速攻を軸に

終盤粘りをみせるが、ミスも重なり、反撃の糸口を見いだすことはできなかった。結果、鹿児島南が

前半のリードを守りきり、そのまま振り切った。終わってみれば25対17と危なげない試合運びで

3回戦へと駒を進めた。

2018年 3月 25日

記載者氏名 名明 千佳

平成29年度 第41回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

女16

男子 ・ 女子 2回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 加古川市立総合体育館 コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名
県立不來方高等学校	20	[	12 — 15 8 — 9 — — — 7mTC	高水高等学校
		]	24	

2回戦、初戦愛知商業高校を下した不來方高校と高水高校との対戦。高水高校のスローオフで

試合開始。高水高校13番岡のサイドシュートが決まり、先制する。その直後に不來方高校16

番工藤がカットインによるシュートで応戦する。前半26分までは一進一退の攻防が続く。流れ

を掴んだのは6番岡田を中心として速攻をからめた高水高校。2点差となった時点で勢いに乗り

たい高水高校は前半残り1分でタイムアウトを取る。その後高水高校は1点を追加し、高水高校

のペースで試合は進み12対15で前半は終了した。

後半直後、高水高校が退場者を出す展開で始まったが、12番田村のナイスセーブや速攻での

猛攻をみせ、4点を連取する。タイムアウトで流れを変えようとした不來方高校は11番谷藤、

14番安倍のシュートで反撃するが、中々点差を縮められない。反対に高水高校は持ち味の速攻

を駆使して、確実に点を決め、6点差まで広げる。後半25分から不來方高校が3点連取するも

追いつくことが出来ず、20対24で高水高校が勝利した。

30年 3月 25 日

記載者氏名 中村 健斗

平成29年度 第41回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

5

男子 ・ 女子 2回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 高砂市総合体育館

チーム名		総得点		総得点	チーム名
函館大付属有斗	29	[	15 — 13 14 — 18 — — —	]	31
			7mTC		浦和実業学園

函館大有斗と鹿児島工業を下し波に乗る浦和実業の対戦。激しいゲームの口火を切ったのは函館大

有斗10番長浜のボールへの執着が生んだシュート。その後、函館大有斗が機動力を活かした攻撃

でリードを3点に広げた。しかし、浦和実業の積極的なディフェンスが生んだ多くのチャンスから

多彩な攻めを見せ、3番石井_聖の得点で逆転に成功。しかし、今度は函館大有斗が粘り強いディフェ

ンスと持ち前のシュート力で得点を重ね、2番伊藤の得点で再逆転。結果的に13対15、函館大

有斗リードで前半を終了した。

後半開始直後、浦和実業が再び反撃を開始した。2番吉田、10番神前などが開始4分で連続4得

点し逆転。勢いついた浦和実業はさらに得点を重ね、リードを7点に広げた。これで大勢が決したか

のように見えたが、残り10分、函館大有斗が猛攻を見せる。4番荒木、2番伊藤が気を吐き、同

点にまで追いついた。しかし浦和実業4番石井_義などがダメ押しの得点を挙げ、この猛攻をかわしき

った。

30年 3月 25日

記載者氏名 和田尚也

平成29年度 第41回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

男10

男子 ・ 女子 2 回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 神戸国際大学附属高等学校

チーム名	総得点		総得点	チーム名																		
守谷高校	<u>19</u>	<table border="0" style="text-align: center;"> <tr><td>8</td><td>—</td><td>12</td></tr> <tr><td>11</td><td>—</td><td>16</td></tr> <tr><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr><td colspan="3">7mTC</td></tr> </table>	8	—	12	11	—	16	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7mTC			<u>28</u>	総社高校
8	—	12																				
11	—	16																				
—	—	—																				
—	—	—																				
—	—	—																				
7mTC																						

二日目最終試合は、中国ブロック代表の総社と、関東ブロック代表守谷の一戦。守谷は立ち上がり、2番藤本の2連打で2点を先取。しかし総社も11番中島の得点、10番竹内の速攻、技ありのループなど一挙5連打で応戦し、たまたず守谷はT0。T0後パスカットから3番宮本の得点で流れを作りたい守谷であったが、総社の組織的なセットDFをなかなか崩すことができない。一方総社は豊富な運動量のDFから11番中島、10番竹内の速攻、9番辻のランニングシュートなどで着実に得点していき、リードを広げる。守谷も10番本多、5番小野らで粘り強く得点していき、前半は12対8で終える。後半開始直後、守谷はサインプレーから9番倉持がポストシュートを決める。しかし総社はひるむことなく9番辻のスピッシュュート、5番有本のクロスからのミドルなどで4連取し流れを掴む。11番中島らで得点していく総社に対し、守谷はダブルマンツーで状況打破を試みるが、要所で得点を許し点差を縮めることができない。後半序盤に広げたリードを、豊富な運動量のDFで守り抜いた総社が、3回戦進出を決めた。

30年 3月 25日

記載者氏名 山本 紘輝

平成29年度 第41回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

15

男子 ・ 女子 2 回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 神戸市立中央体育館

コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名																					
九州産業大付属九州産業	22	<table border="1"> <tr><td>11</td><td>—</td><td>11</td></tr> <tr><td>11</td><td>—</td><td>7</td></tr> <tr><td>—</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>—</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>—</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>—</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7mTC</td><td></td><td></td></tr> </table>	11	—	11	11	—	7	—			—			—			—			7mTC			18	高山西
11	—	11																							
11	—	7																							
—																									
—																									
—																									
—																									
7mTC																									

両チームとも本大会初戦となる対戦。九州ブロックの九産大付属と、東海ブロック3位の高山西の対戦。スローオフ

高山西で試合開始。開始43秒、高山西No.3 飼馬のシュートが決まり先制。九産大付もシュートを放つが、高山西のDF

の圧力にゴールネットを揺らすことができない。高山西はNo.2 西平のスピード溢れる鋭い切り込みを起点に、得点を重ね

る。No.6 小嶋、西平が立て続けにパスカットからの速攻を決め、4点差をつけた高山西のペースで序盤は進んだ。しかし、

九産大付はNo.9 和田のミドルステップシュートなどで食らいつき、徐々に差を詰めていく。速いパス回し、全員がスピー

ドに乗って攻撃参加するセットプレーで生き生きと動き始めた九産大付は、22分14秒、セットプレーからNo.5 水上が

決めて同点に追いつく。その後は両チーム点を取り合い、同点のまま前半が終了した。

前半の中～終盤の雰囲気そのままに、後半、九産大付が躍動する。No.10 藤井のパスカットからの速攻の連続、和田の

力感あるミドルなどで得点を重ねていく。対する高山西は、西平の巧みなパスワークから攻撃を組み立て、飼馬、No.8

早瀬のサイドシュートなどで食らいつこうとするが、要所で九産大付GK宮本の度重なる好セーブが高山西への流れを

封じ込め、九産大付が3回戦に駒を進めた。

30年 3月 25日

記載者氏名 沖野 勝洋